施 策 評 価 シ ー ト

1 総合計画上の位置づけ

担当課： 教育総務課

施策名	08 教育環境づくり
政策名	明日を担う「人」を育てる
施策がめざす将来の姿	・安全で充実した教育環境の中で、児童生徒が安心して学んでいます。
	・地域の食を生かした、安全でおいしい給食が提供できています。

③ 施策評価指標

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
長寿命化改修を実施した校数	校	0	2		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	0	0	1.00		

成果指標名	単位	後期当初値	令和９年度目標		
留守家庭児童教室の受入率	%	100	100		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	100	100	100		

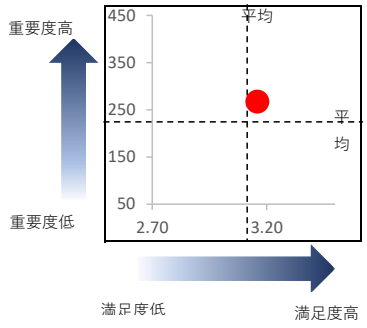
3 施策の重要度と満足度（市民アンケート調査結果）

重要度／単位（人）
令和7年度
267

満足度（満足している市民の割合）／単位（%）		
令和6年度		**令和7年度**
86.1	↗	89.8

※増減（→）の基準は3ポイント以上とする

R7重要度・満足度（他の施策と比較した位置）



4 施策の課題と今後の方針

（施策評価指標等の分析のほか、今後重点化していく事務事業について、現状・課題・背景などを踏まえて記載。）

7割以上の学校施設は、建築後30年以上経過しており、経年による老朽化が進行しています。従来の改築中心の対策から、計画的に維持保全する長寿命化へ転換することにより、中長期的なトータルコストの縮減・予算の平準化を図っていきます。
児童の健全育成及び共働き家庭支援のため実施している留守家庭児童教室事業は、少子化の中でも利用者が増加傾向にあることから、人材確保を進める等、受入体制の充実化を図る必要があります。

5 施策を構成する事務事業の今後の方向性

（右欄は、施策を構成する事務事業のうち、今後特に重点化するものに○、縮小するものに△、廃止するものに▲を付す。）

事務事業①：留守家庭児童教室事業

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性 事業費	方向性 成果	事務事業の今後の方向性	重点化
307,536	留守家庭児童教室事業	↘	↗	施設整備費の減少に伴い全体事業費も減少しています。保護者が安心して働ける環境づくりに有意義な事業です。子どもたちが安心して利用することができるよう指導員の人材確保と育成に取り組みます	○

事務事業②：奨学資金貸付事業

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性 事業費	方向性 成果	事務事業の今後の方向性	重点化
24,146				進学の意欲と能力を有する学生を支援するため、修学上必要な資金を貸与する事業です。本事業を広く周知し、支援を必要としている学生に貸与することで、有能な人材の育成に寄与できるよう取り組みます。	

事務事業③：放課後子ども教室事業

R7決算額（千円）	重点化(縮小)する細事業（主なもの２事業まで）	方向性 事業費	方向性 成果	事務事業の今後の方向性	重点化
10,743	学びクラブ事業	↗	↗	放課後や学校休業日に地域住民の参画を得て、学習活動、スポーツ、文化活動及び地域における多様な体験活動を実施し、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを進めます。開設校の拡充を目指します。	